



製造業の品質管理・生産管理部門向け

グローバルへのナレッジシェアを 成功させる仕組み作り

世界で活用される共有基盤の構築ステップと母国語対応

WOVN.io

Wovn Technologies株式会社

はじめに

本 ebook では、日本の製造業が誇る「改善力」をグローバルで展開するために、グローバルでのナレッジシェアの課題を明らかにし、推進のステップについてご紹介します。

- 日本の製造現場が持つ“改善力”は競争力の源泉であり、そのノウハウは他国でも再現可能な知的資産として、**グローバルで展開し、企業全体の競争力向上を図ることが重要です。**
- 徹底した品質や生産性の向上が求められる中、**日本が持つノウハウや知識をいかに効率的に集め、各拠点に横展開し、グローバルで標準化することが重要視されています。**
- 一方でグローバルでのナレッジシェアには、**共有すべき知識やデリバリーの仕組みが未整備であったり、局所的な知識の移植だけでは現地での活用や定着に繋がらない、**といった課題があります。
- 拠点を越えて、“現地で使われるナレッジ”を実現するためには、**共有基盤の整備や母国語での展開など、4つのステップを段階的に整理し実行することが不可欠です。**
- 本 ebook は、グローバルナレッジシェアの課題を整理し、促進方法や定着までのステップを提示することで、世界での「改善活動」が活発になり、成果に繋がることを願ってまとめました。

目次

1. グローバルナレッジシェアの必要性 
2. 3つの課題 
3. 実現の4ステップ 
4. 導入事例 
5. WOVN.ioの特徴 
6. おわりに 

今、なぜグローバルナレッジシェアが必要なのか

グローバル化が進み、事業環境が大きく変化する中、企業が競争力を高めるには「世界規模での生産性向上」が喫緊の課題です。その実現には、日本企業の知識と経験を効率的に共有し、グローバルに標準化することが不可欠です。

ナレッジシェアが求められる背景



世界規模での
生産性向上の徹底

新興国台頭・価格競争・原材料費の高騰が進む中、世界各地に分散している技術やノウハウを集約し、**生産性の向上をグローバルで推進する**ことが生存戦略に。



新技術や顧客ニーズへの
迅速な対応

技術革新と市場変化のスピードに応じるために、グローバルにおける先進事例を各拠点の現場レベルにまで横展開し、**「現場の改善力」のスピードを向上させる**ことが必要。



人材流動化による
ナレッジ喪失リスク

ジョブ型雇用や人材の流動化が進む中、属人化させずに、**個人が保有するノウハウを組織として形式知化できる部分は形式知化をすすめ、その継承・活用を促進する**ことが重要。



日本のものづくり品質を
世界へ届ける

世界でも認められている**日本のものづくりの品質の高さを現実たらしめている「現場の改善」**が各拠点でも再現できるように、日本の技術や知識、オペレーションをグローバルへ展開すべきである。

日本の製造現場が持つ“改善力”は、世界で通用する活動

日本の製造業を支える現場が持つ“改善力”は、海外現場でも再現可能な知的資産であり、同時に海外現場で再現可能にすべき知的資産としてグローバルに展開することが求められます。

“改善力”の源

現場に根付いた価値観



- 品質への誠実さと責任感
- 密な連携「報・連・相」
- 熟練された匠の技の継承
- 脱属人化の仕組み化

改善活動の習慣化



- ボトムアップでの QCD 向上徹底
- 5S、ヒヤリハット、三現主義などの考え方の定着
- 目標や成果の見える化

標準化されたオペレーション



- トレーニング、マニュアルや手順書の充実
- 生産管理システムの活用
- 臨機応変に対応できる力

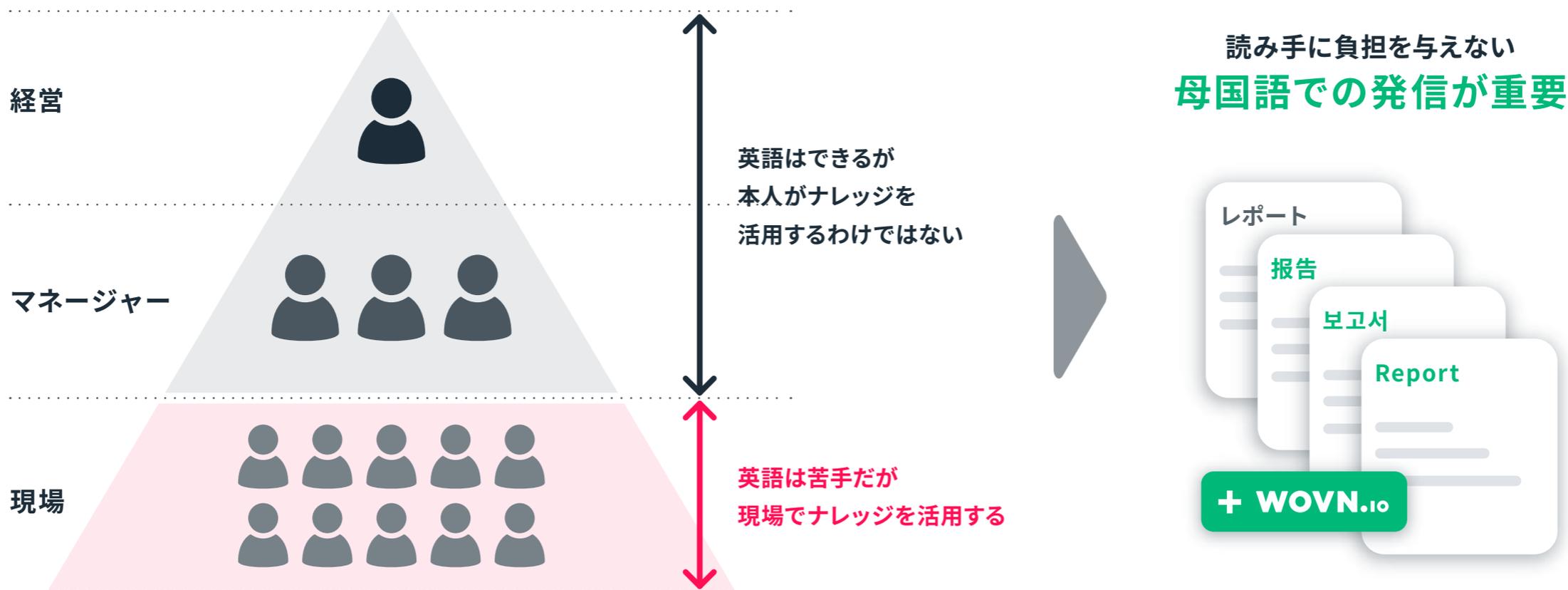
グローバルでのナレッジシェアの3つの課題

グローバルでナレッジを共有するためには様々な課題があります。

共有・移転すべき知識、共有するための仕組み、現地での定着、の観点で整理します。

観点	主な課題	よくある例	対策の方向性
 移転すべき知識の壁	<ul style="list-style-type: none">● 暗黙知● 属人化● 前提の非公開	<ul style="list-style-type: none">● あの人がしか知らない・できない● 他拠点の話は活用できない	<ul style="list-style-type: none">● SECI モデル等による形式知化● 背景・意図の記述
 アクセス性の壁	<ul style="list-style-type: none">● 管理がバラバラ● 探せない● 読めない	<ul style="list-style-type: none">● 紙資料やエクセル管理● 検索にヒットしない● 日本語だと読めない	<ul style="list-style-type: none">● グローバル共有の仕組み構築● 関連性の高さなど検索性を高める● 母国語で読めるように● 動画・音声活用
 定着・関係性の壁	<ul style="list-style-type: none">● 形骸化し使われない● 一方的な押し付け感	<ul style="list-style-type: none">● 拠点の「やらされ感」● 読むだけで、活用されない	<ul style="list-style-type: none">● 受け手側の教育● 賞賛文化● 知識活用の表彰・評価● 双方向のコミュニケーション

改善活動は、トップダウンではなく現場から生まれます。英語を理解できるマネジメント層だけでなく、実際に改善活動をする各国現場の外国人従業員に、母国語で情報を届けることが重要です。

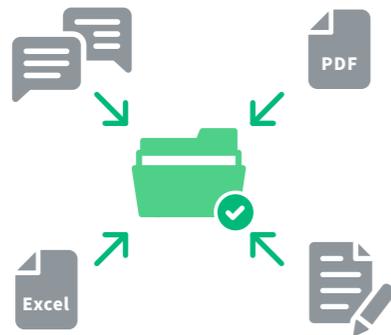


グローバルナレッジシェア実現の4ステップ

Step 1

ナレッジの整備

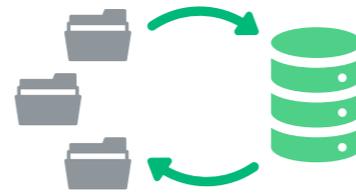
共有すべき知識や範囲を決め、フォーマットを決める



Step 2

Web・データベース化

グローバルで管理・共有しやすいデジタル環境を構築し、従業員が検索しやすい環境改善を行う



Step 3

母国語での展開

各拠点の従業員が母国語で読める環境を整備し、現場に自分ごと化させる



Step 4

評価・定着促進

各現場で継続的な成果に繋げるために、ナレッジ活用事例の公表や、情報分析を行い、主体性を強化する



ポイント

- 全世界で共有すべき情報を設定
- 共有フォーマットを作成
- 形式知としてフォーマット化

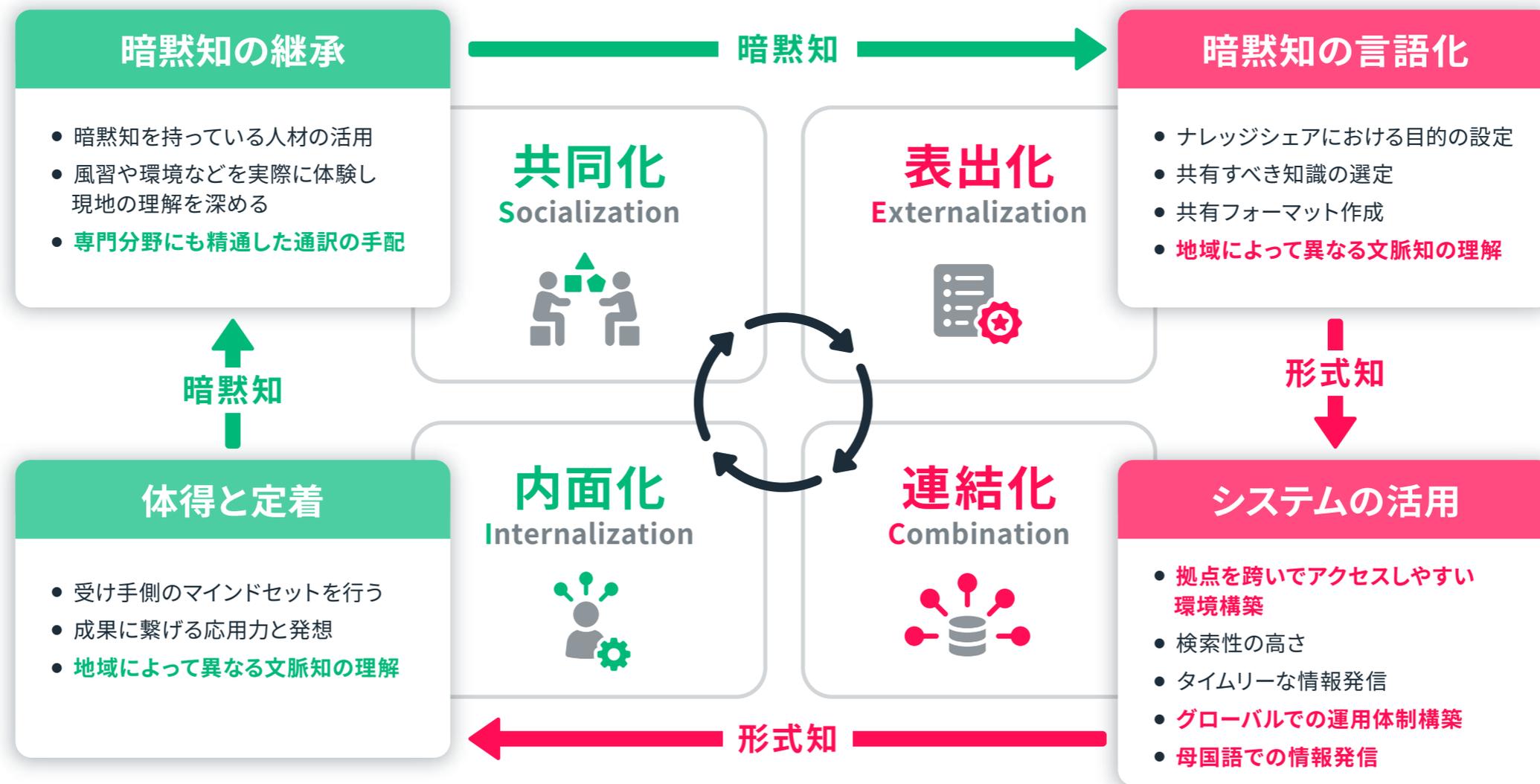
- 集約した情報を Web 化
- 社内イントラネット等を活用し、アクセスのしやすさを担保
- カテゴリーやランキングなどを設置

- 現場で読めるよう、共有されたナレッジを多言語化
- 駐在員等により、現場に展開

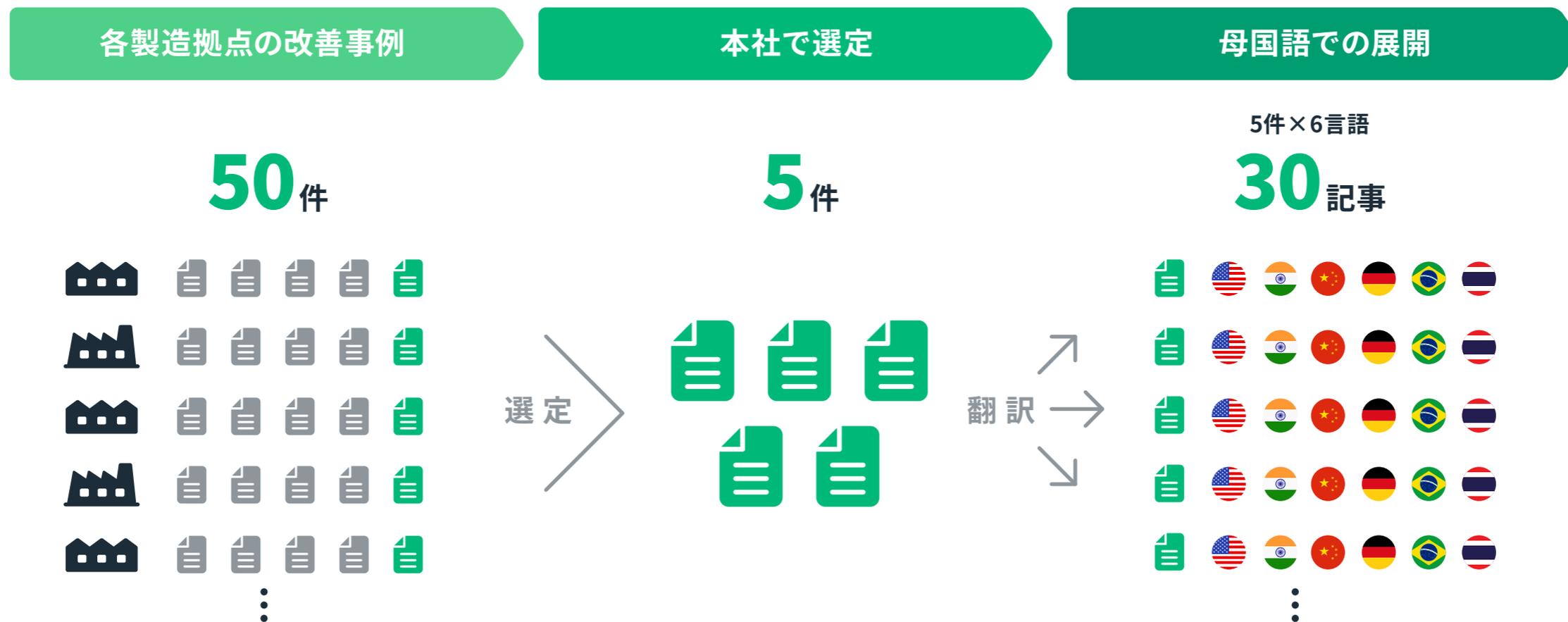
- メール等での日々情報共有
- 社内表彰
- 社内報やブログ等、定期的な事例共有
- 品質管理分析やクレーム情報等の分析

ナレッジを再利用可能な形にするためには、“知識を形式知化するプロセス”が必要です。

SECIモデルは、その手順を整理するうえで有効なフレームであり、各プロセスで留意すべき点があります。



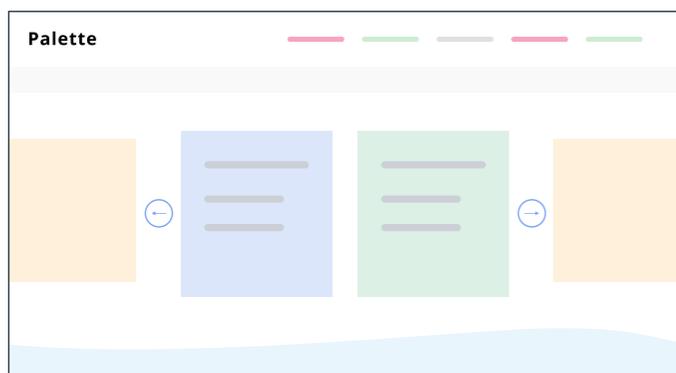
「改善活動」に終わりはなく、各製造拠点で継続的に生み出される事例を、グローバルで共有するために各言語に翻訳をして公開する必要があるため、持続可能な運用方法をとらなければなりません。



毎月30記事分の人力翻訳を運用にのせるのは大変

グローバルナレッジシェアの事例：サントリーホールディングス株式会社

SUNTORY



画像はイメージです

企業プロフィール

<https://www.suntory.co.jp>

グループ企業数：265社

従業員数：41,357人

うち海外従業員数：21,537人

(2024年12月31日現在)

グローバルの各生産拠点が一体となって改善活動を進めるため、“Continuous KAIZEN knowledge”を母国語で発信

背景・目的

- グローバルでナレッジを共有し、それぞれの拠点での改善活動を活性化する

課題

- 実際に工場現場で改善活動を行う多くの従業員にも届けるため、読み手の負担を無くす母国語への対応が必要
- 全ての事例を人力で翻訳した場合、実運用が追いつかない

多言語運用フロー

- 1 水平展開の要素を 3,000文字程度で日本語で要約
- 2 英語の人力翻訳を実施
- 3 英語で“Continuous KAIZEN knowledge”ページを作成
- 4 WOVN.io で残りの5言語に翻訳
- 5 日本語ページに日本語の要約文を公開

詳細はこちら [🔗](#)

<https://mx.wovn.io/casestudy/suntory>

WOVN.ioのご紹介

Webサイト多言語化のよくある課題

Webサイトの多言語化を人の手で行う場合、言語ごとのサイト開発・運用が必要となりコスト・スピード・リソースの面で課題が生じます。結果的に、情報発信の量が足りない、更新が遅延してしまう、などの状態に陥りがちです。



膨大な工数・コスト

コンテンツ追加の度に翻訳・開発・修正の工数が膨らみ、最低限のコンテンツしか多言語化できない。



翻訳反映までの時間

翻訳や開発に時間がかかり情報の新鮮さが失われるため、ニュースを多言語化するのを止めてしまう。



人的リソースの負担

サイトの多言語運用は工数が多く本来の業務との両立が難しいため、後回しになってしまう。



多言語での情報発信の量が不足 / 更新が遅延

WOVN.ioが、多言語化の悩みを解決

Web多言語化AIソリューション

WOVN.io

国内外18,000サイト以上が利用する Webサイト多言語化AIソリューション

WOVN.io は既存の Web サイトを最大45言語に多言語化し、運用を自動化できるサービスです。導入前のヒアリングから導入後の運用支援までトータルにサポートいたします。

翻訳したページ数

15,000,000

翻訳したサイト数

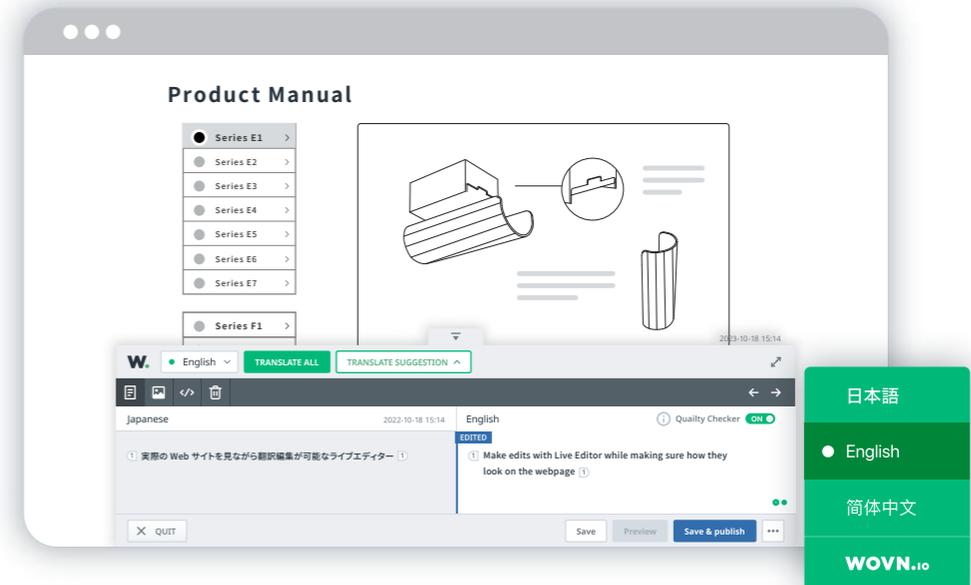
18,000

対応言語数

45言語

年間アップデート数

250



あらゆる業界で広く活用されるWOVN.io



一部抜粋、2025年8月末時点

WOVN.ioの価値

WOVN.io なら、従来の Web サイト多言語化における課題をすべて解決。
本来あるべき理想的な多言語サイトの運用を、簡単に実現できます。

WOVN.io なら「本来あるべき多言語サイトの運用」を簡単に実現



運用負荷・コスト低減

未翻訳箇所を自動で検出・翻訳[※]。
日本語のコンテンツを更新して
おけば、**ほぼ自動で多言語運用**。

※世界30の国と地域における特許技術



安心できる翻訳品質

AI 活用を含めたさまざまな翻訳方式を
ご用意しているため、**求める品質・スピード
に応じた最適な翻訳を提供**できます。



高いセキュリティ

翻訳資産を守るため、**通信・保管データの
保護、多層的な防御機能の実装、サービスの
安定稼働**など高いセキュリティを維持
しています。

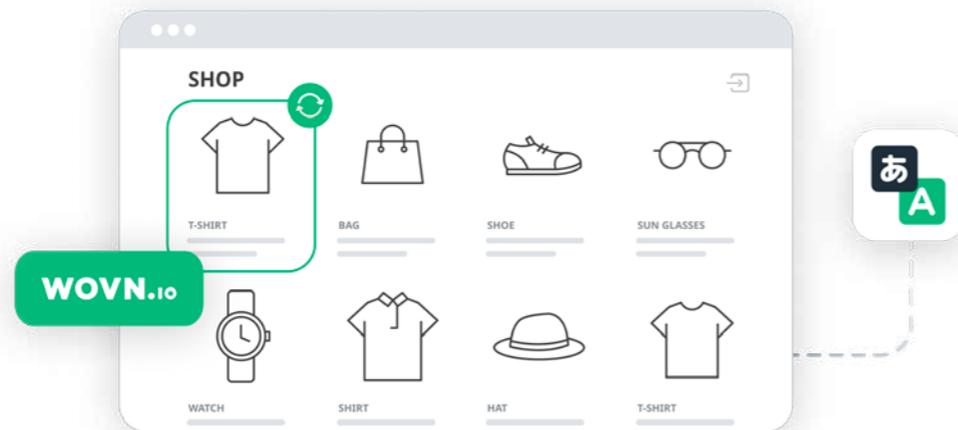
高品質AI翻訳基盤 “Maestro”

Maestro は、高品質の翻訳を提供するために WOVN が独自に開発した AI 翻訳エンジンです。生成 AI の活用、50を超える機械翻訳エンジンとの連携、企業の固有名詞を正しく翻訳するためのデータベースを元に、高品質な翻訳の自動運用を実現します。



WOVN.ioの特徴 スピーディに高品質な翻訳を実現

国際特許で実現するリアルタイム翻訳 「リアルタイムモニタリング機能」



元コンテンツの追加・更新が発生した際など、未翻訳の箇所を自動で検知し、自動で翻訳・公開する機能です。動的コンテンツの多言語化も可能にします。WOVN.io のサーバーと直接通信して翻訳情報を取得する技術について、30の国・地域で国際特許を取得しています。

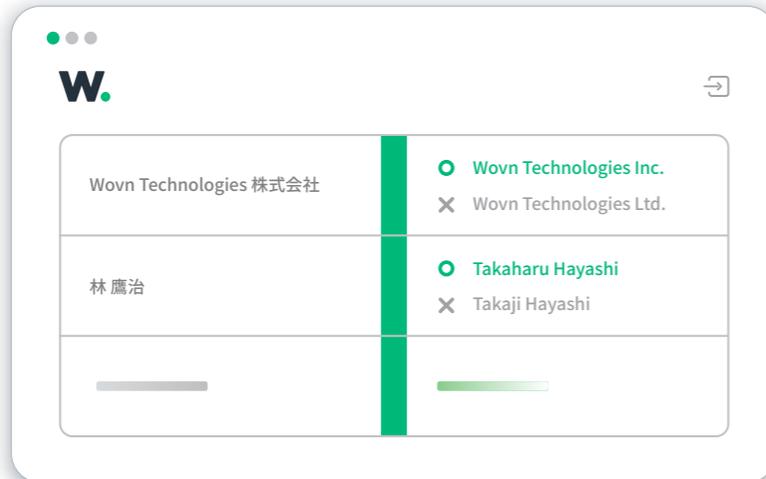
AI 活用で高品質な翻訳を自動運用 「WOVN COPILOT」



品質・コスト・スピードの全てを担保するために開発された WOVN 独自の AI 翻訳の仕組みです。機械翻訳結果を AI が評価し、必要に応じてプロの翻訳者が翻訳編集します。

WOVN.ioの特徴 手間なく高品質な多言語サイトを

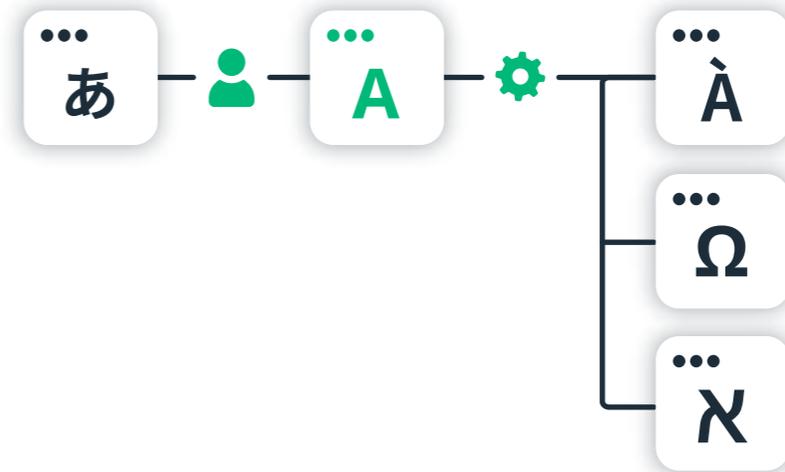
専門用語・固有名詞も誤訳知らず 「用語集」



事前に用語集に登録しておくことで、機械翻訳適用時でも、業界特有の専門用語や固有名詞を正しく翻訳できます。

「何を登録すべきかわからない」場合には用語集抽出機能を、「今ある対訳集を活用したい」場合は一括アップロード機能をご利用いただくことも可能です。

英語を元言語にして品質向上 「ピボット翻訳」



日本語のコンテンツをまずは英語に人力翻訳し、その結果を多言語に自動翻訳します。英語を自動翻訳の中間言語として利用することで、日本語から直接多言語化するよりも高い精度で翻訳することができます。

WOVN.ioの特徴 安心・安全なセキュリティ

重要なデータを保護し情報漏洩を防ぐ セキュリティ対策



堅牢なセキュリティと、オートスケールによる安定稼働。様々なログの自動取得とマルウェア対策によりエンタープライズレベルのセキュリティを提供しています。

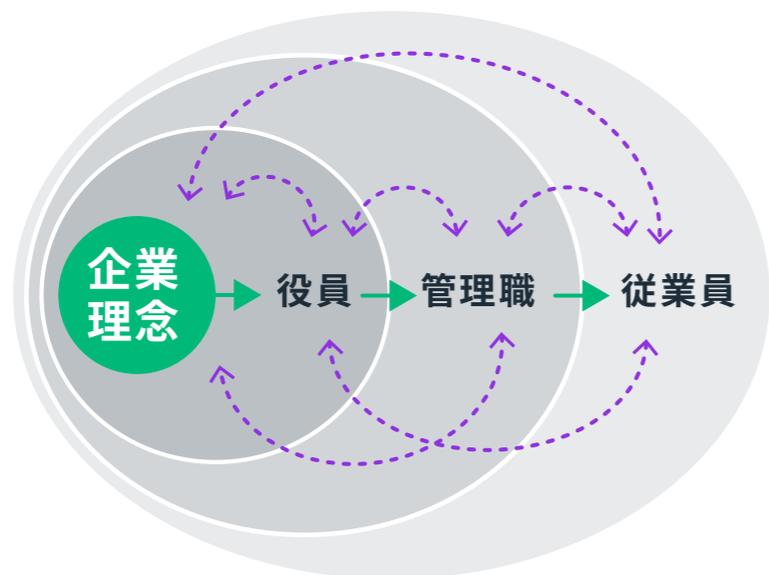
導入から運用まで頼れるサポート 日本語による安心サポート



Web サイト多言語化の経験豊富な日本人サポートが、導入の検討から運用までを支援します。環境設定で分からないことや、運用方法の検討までさまざまにご相談を承ります。

グローバル全体で成果を出すためには、社員が企業の理念や価値観を理解し、それに沿った行動を促すことが必要です。そのためにも、伝えるべき情報を継続的に発信し、双方向のコミュニケーションを行うことが欠かせません。

→ インナーブランディング



↔ インターナルコミュニケーション

社員に伝えるべきこと

ブランドの本質

- ミッション (使命)
- ビジョン (目指す未来)
- バリュー (価値観・行動指針)

ブランドが提供する価値

- 顧客へ提供している価値
- そのブランド“らしさ”
- 大切にしていること

ブランドストーリー・歴史

- 創業の想いや歴史
- 培われた精神や習慣

社員に期待される行動

- 顧客対応や製品作りにおける具体事例
- 評価や表彰

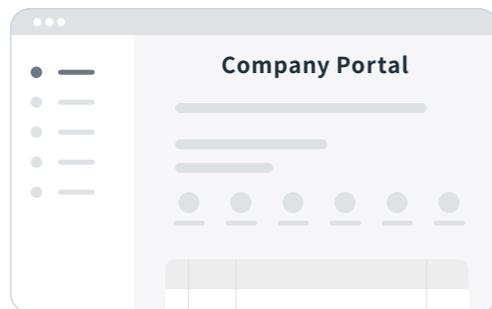
日々の活動の中で、触れる頻度を増やす

外国人社員への「ブランド浸透」を助ける多言語対応

グループ全体で“One Team”として一体感を醸成するために、社内ポータルサイトや社内報、社内向け動画、グローバルでのイベントなど、各コミュニケーション施策を多言語で行う企業が増えています。

Webサイト多言語化

WOVN.io



社内ポータル

アプリ多言語化

WOVN.app



Web 社内報

字幕翻訳ソリューション

WOVN.video



社長メッセージ

テキスト・ファイル翻訳

翻訳Now. Beta

Powered by WOVN



グローバルミーティング

企業の多言語化を実現するAIトータルソリューションを提供

おわりに

多言語のナレッジシェアサイトを効率的に運用し、日本の改善力を標準化することで、グローバルでの品質と生産性の向上に繋がります。ポイントを押さえ、確実にかつスピーディに取り組みを進めていきましょう。

多言語化を進めるために重要なポイントと考え方

検討タイミングを逃さない

早いタイミングから多言語化を検討することで、特定の従業員の疎外感を出さないことが重要です。

“楽”に運用することを重視

手間・時間・コストがかかると長期的な運用ができなくなります。翻訳は外部に、社内リソースは本業に。

「英語で充分」と思わない

読み手に少しでも負担があると読まれません。母国語で発信することで「あなたのための情報」と印象付けられます。

より多くの人を巻き込む

Webサイトのステークホルダーは意外に多いため、意思決定は1人でも、巻き込みは早い段階から行いましょう。



[その他のお役立ち資料はこちら](#) 

 marketing@wovn.io

 03-6434-0246

[導入に興味のある方はこちらから](#) 

記載情報は2025年8月時点のもので、導入事例は当社 Web サイトに掲載された当時の内容をもとにしています。また、各社 Web サイトの画面は各社より引用しています。